

## 平成 23 年 11 月定例県議会知事答弁

### (国道 169 号線たかとりバイパスについて)

たかとりバイパスは道づくり重点戦略で、京奈和自動車道へのアクセス道路として共用目標宣言路線に位置づけ、延長 3.4km の整備を進めている。

渋滞が著しい下土佐交差点や近鉄吉野線踏み切りを避けて、県南部地域から京奈和自動車道へのアクセスが可能となるように、今年度中に県道樫原・高取線から清水谷・市尾・丹生谷線の 1.4km 区間の共用を今年度中に整備出来るように進めている。

残る町道、清水谷・市尾・丹生谷線から現国道 169 号線までの南側 2.0km (仮称：清水谷トンネル 630m も含む) については、現在 31% の用地買収を終えている。用地買収を進めると共に順次、道路の整備を進めていく予定である。

### (病院機能再編による南和の医療体制について)

南和地域の公立 3 病院の位置づけ

- ① 近鉄福神駅前には地域の救急を断らない 250 床程度の救急病院を新たに整備する。消化器・呼吸器・糖尿病などの専門医療を中心に行なうと共に、災害拠点病院の機能を持たせるため、ヘリポートを設置する。
- ② 国保吉野病院・県立五條病院のそれぞれを地域ニーズの高い 90 床程度の療養病床を有した地域医療センターとして、リニューアル改修する。  
在宅への連携を見据えた高齢者医療のほか、地域の身近な外来として、まず内科・整形外科を設置する予定である。
- ③ 新たな救急病院がへき地医療の支援をする役割を担う。医師・看護師の養成・派遣や山間地域での巡回診療を行なう。  
さらに 3 病院とへき地公立診療所との間で診療連携を推進するため、診療予約はレントゲン結果の相互利用などが可能となる診療情報ネットワークの構築を図る。
- ④ 3 病院の経営を統合し、機能分担を確実にすると共に地域やへき地の医療機関、県立医科大学との連携体制を確立することが必要である。  
病気を発症してから社会復帰するまで、南和地域全体で切れ目の無い医療提供システムを構築し、住民に最適な医療を継続的に行ないたいと思っている。